

まもなく、締切です。

第15期「ピアニストのための アンサンブル講座」

受講生募集

申込締切／4月19日(日)必着

一般の方も聴講できます。

漆原啓子(ヴァイオリン)、向山佳絵子(チェロ)の各氏を講師に迎え、アンサンブルに取り組みます。ベートーヴェン・プロジェクトにちなみ、デュオではベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ、チェロ・ソナタを取り上げます。

スケジュール

- ① 7/ 8(水)実技レッスン(ヴァイオリン)
- ② 7/ 9(木)アナリーゼ、講義～奏者の視点から
実技レッスン(ヴァイオリン)
- ③ 8/ 4(火)実技レッスン(チェロ)
- ④ 8/ 5(水)アナリーゼ、講義～奏者の視点から
実技レッスン(チェロ)
- ⑤ 10/21(水)実技レッスン(ピアノ三重奏)
- ⑥ 10/22(木)アナリーゼ、講義～ピアノをめぐる音響を考える
実技レッスン(ピアノ三重奏)
- ⑦ 12/16(水)実技レッスン(ピアノ三重奏)
- ⑧ 12/17(木)アナリーゼ、講義～ピアノをめぐる音響を考える
実技レッスン(ピアノ三重奏)
- ⑨ 2021/2/6(土)実技レッスン(最終レッスン)
- ⑩ 2/7(日)修了記念コンサート



いずれも詳しくは各募集要項をご覧ください。

募集要項は静岡音楽館AOIのホームページでダウンロードできるほか、7階受付カウンターでご用意しています。

第10回

アマチュア・アンサンブルの日♪

申込締切／4月24日(金)必着

出演者募集

アマチュア・アンサンブルの日♪は10回目を迎えます。AOIの舞台に立ちたいみなさん、ふるってご応募ください。



撮影：日置真光

子どものためのコンサート

ロナルド・カヴァイエ& ヴァレリア・セルヴァンスキー ピアノ・デュオ・リサイタル 子どもピアニスト募集

申込締切／4月18日(土)必着

小学1年生から中学3年生のあなた。「子どもピアニスト」になって、ロナルド・カヴァイエさん、ヴァレリア・セルヴァンスキーさんと一緒にコンサートに出演してみませんか。

ご寄附のお願い

静岡市文化振興財団が目指す魅力ある静岡文化の創造について、ご関心のある市民の皆さま、法人・団体の皆さまからの寄附金の受付を行っています。

静岡市のさらなる文化振興の発展のため、有益な事業を展開するための運営費となります。当財団に寄附をしていただいた方は、税制上の優遇措置を受けられます。

寄附をお考えの方、寄附制度について詳しく知りたい方は、ホームページをご覧ください。下記までお電話でお問合せください。



静岡市文化振興財団
Shizuoka City Cultural Promotion Foundation

お
問
合
せ

〒420-0857 静岡市葵区御幸町4番地の1
アーバンネット静岡ビル4階
TEL.054-255-4746 FAX.054-653-3501
HP : <https://www.scpf.shizuoka-city.or.jp/>
e-mail : office@scpf.shizuoka-city.or.jp

静岡音楽館倶楽部会員の皆さまへ

お名前、ご連絡先、銀行口座等、ご登録内容に変更が生じた場合は、速やかに下記までご連絡ください。なお、2020年度をもって退会をご希望のかたは、2021年2月末日までに、静岡音楽館倶楽部事務局へ退会届をご提出ください。ご提出のない場合は自動更新となりますので予めご了承ください。

静岡音楽館倶楽部 法人会員(2020年2月末現在)50名順

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ●(株)アオイテック | ●(株)タミヤ |
| ●(株)SBSプロモーション | ●(株)戸田書店 |
| ●(株)ジェアール東海ホテルズ | ●(有)丸吉事務機 |
| ホテルアソシア静岡 | ●(株)メディア・ミックス静岡 |

コンサートシリーズ2020・21

主 催 静岡音楽館AOI 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団

特別協賛 静岡信用金庫

協 賛 アイワグループ ANSHINDO

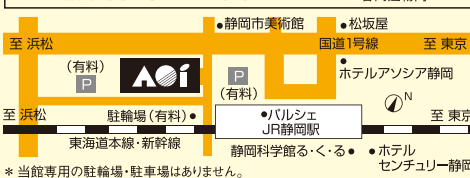
次のことを予めご了承の上、チケットをお求めください。
皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

- * 価格は税込です。
- * 都合により内容を変更する場合があります。
- * お客様のご都合によるチケット代の返金、座席の変更は致しかねます。
- * 場内での飲食、写真撮影、録音、録画は固くお断りいたします。
- * 携帯電話、アラーム付時計等の使用はご遠慮ください。
- * 他のお客様の鑑賞の妨げとなる行為は固くお断りいたします。
- * 静岡音楽館AOIは、施設の構造上、会場準備が整わない状態(開場時間前)で、お客様を8階ホールへご案内することができないため、通常エレベーターは7階止になっております。開場時間になるまで1階エレベーター前か、7階ロビーでお待ちください(ただし、1階エレベーター前でお待ちいただいたお客様を優先してご案内いたします)。
- * 静岡音楽館AOIが主催するコンサート(一部を除く)では、未就学児は入場いただけません。



事前予約(1週間前まで) 託児料：1人1,000円
すわん Tel./Fax.054-255-5377
(火～金 10:00～15:00)
e-mail : swan@xqj.biglobe.ne.jp
留守番電話の場合は、お名前・お電話番号を録音してください。

JR静岡駅北口を出てすぐ左



CONCERT HALL SHIZUOKA
静岡音楽館 AOI

月曜日休館(ただし祝日開館、翌平日休館) 9:00～21:30開館

〒420-0851 静岡市葵区黒金町1番地の9

お 問 合 せ

054-251-2200

AOI

検 索

AOI通信

静岡音楽館倶楽部情報誌
MAR. 2020 No.97

春号

静岡音楽館AOI 25周年をふりかえって

……静岡音楽館AOI芸術監督 野平一郎

インタビュー 小菅優

小菅優 & 石坂団十郎

デュオ・リサイタル

～ショパンの調べ～

メッセージ 工藤重典

ランチタイム・コンサート

工藤重典 & 福田進一

フルートとギターの饗宴

AOIのオープン・デイ2020

静岡音楽館AOI 25周年を ふりかえって

静岡音楽館AOI芸術監督 野平一郎



撮影：相田憲克



野平一郎 ポートレート・コンサート 作曲家として、ピアニストとして

2005年1月28日(金) 19:00

野平一郎(ピアノ)、豊嶋泰嗣(ヴァイオリン)、川本嘉子(ヴィオラ)、向山佳絵子(チェロ)
野平一郎：ピアノ《冬の四重奏曲》(日本初演)
間宮芳生：ピアノ6つのエチュード〜ピアノのために(エチュードⅣ〜Ⅵ)
(静岡音楽館AOI委嘱作品・世界初演)
C.ドビュッシー：前奏曲集 第1集



撮影：日置真光

クロード・ドラングル サクソフォン・ライブ “Quest”

2007年11月23日(金・祝) 18:00

クロード・ドラングル、平野公崇、波多江史朗、井上麻子、有村純親(サクソフォン)
マルコ・ストロツパ(作曲、コンピュータ)
アルシア・コント(IRCAM コンピュータ音楽デザイナー)
ヨアキム・オラヤ(IRCAM サウンド・エンジニア)
G.シェルシ：3つの小品〜ソプラノ・サクソフォン独奏のための
P.ジョドロフスキ：ミクシオン(混合)〜テナー・サクソフォンとライブ・エレクトロニクスのための
(IRCAM、パリ国立高等音楽院、H.セルマー委嘱作品)
L.ナオン：分岐する小道〜ソプラノ・サクソフォンとライブ・エレクトロニクスのための
(IRCAM 研修修了作品)
G.スピロプロス：サクスティ〜テナー・サクソフォンとライブ・エレクトロニクスのための
(IRCAM 研修修了作品)
C.ドラングル/L.ベリオ：アラウンド/セクエンツァⅧb〜5つのサクソフォンのための
(世界初演)
A.マルケアス：ペリプシス〜アルト・サクソフォンとライブ・エレクトロニクスのための
(世界初演)
鈴木純明：風〜ソプラノ・サクソフォン独奏とサクソフォン四重奏のための
(H.セルマー委嘱作品・日本初演)
M.ストロツパ：…of Silence〜アルト・サクソフォンと室内エレクトロニクスのための
(静岡音楽館AOI委嘱作品・世界初演)
J.T.フェルドハウス：Grab it!(グラビット!)〜テナー・サクソフォンとCDのための
M.タディーニ：プレリア〜ソプラノ・サクソフォンとライブ・エレクトロニクスのための
(日本初演)

J.S.バッハ：マタイ受難曲

2006年3月18日(土) 18:00

小林道夫(音楽監督、指揮)
水越啓(福音書記者)、三原剛(イエス)
天羽明恵(ソプラノ)、望月哲也(テノール)
寺谷千枝子(メゾソプラノ)、萩原次己(バリトン)
渡辺祐介(ピロト、ユダ)、戸崎文葉(ピラトの妻、女中1)
箕輪健(ペトロ)、瀬本千沙子(女中2)
大門康彦(大祭司、祭司長2)、淀尚子(証人1)
斎藤洵(司祭長1)、鏡孝之(証人2)
静岡児童合唱団 & 青葉会スペリオル(合唱指導：戸崎裕子)
ジングアカデミー 2006
東京カンマーオーケストラ(コンサートマスター：岡山潔)
J.S.バッハ：福音書記者マタイによる
われらの主イエス・キリストの受難 BWV244



ブラヴォー・アンコール！ クロード・ドラングル サクソフォン・ライブⅡ “Next”

2012年10月13日(土) 18:00

クロード・ドラングル(サクソフォン)
マキシム・ル・ソー(IRCAM)(サウンド・エンジニア)
ホセ・ミゲル・フェルナンデス(IRCAM)(コンピュータ音楽デザイナー)
P.ブーレーズ：二重の影の対話(サクソフォン版)
IRCAMコンピュータ音楽デザイン：アンドリュウ・ジェルソー
IRCAMスタジオにてエレクトロニクス制作
G.グリゼー：アヌビ=ヌー
M.ストロツパ：…of Silence(静岡音楽館AOI委嘱作品第2版)
IRCAMコンピュータ音楽デザイン：アルシア・コント
IRCAMスタジオにてエレクトロニクス制作
L.ベリオ：セクエンツァⅨb
野平一郎：《息の道》4つのサクソフォンを奏する1人のサクソフォン奏者と電子音響のための
(静岡音楽館AOI委嘱作品IRCAM制作作品・日本初演)
1. 息の道
2. 言語の道
3. 楽器の道
4. 生の道
IRCAMコンピュータ音楽デザイン：ホセ・ミゲル・フェルナンデス
IRCAMスタジオにてエレクトロニクス制作



撮影：日置真光



撮影：日置真光

オペラ《ポボー》

2009年6月28日(日) 15:00

間宮芳生 オペラ《ポボー》
(静岡音楽館AOI委嘱作品・世界初演)
原作／倉橋由美子
脚本・音楽・指揮／間宮芳生
演出／田中泯
舞／吉川真澄(ソプラノ)
ポボー／上杉清仁(カウンターテナー)
聡子／波多野睦美(メゾソプラノ)
佐伯／大槻孝志(テノール)
剛・記者／河野克典(バリトン)
入江晃／清水寛二(能楽師)
山田百子(ヴァイオリン)
川本嘉子(ヴィオラ)
苅田雅治(チェロ)
吉野弘志(コントラバス)
木ノ脇道元(フルート)
池邊昇平(フルート)
宮村和宏(オーボエ)
鈴木生子(クラリネット)
和田光世(打楽器)
寺嶋陸也(ピアノ)
猪俣義周(シンセサイザー)
コレペティトゥール／戸川夏子、洪鍾善
舞台スタッフ／石原志保(演出助手)、鈴木啓志(装置)、
鈴木らん(装置・美術)、田中あみ(照明)、藤田龍平(黒子)、
龍野徳親(黒子)、大西健太郎(黒子)、山本亮介(黒子)、
森純平(黒子)、斎藤麻生(黒子)、松尾彩子(黒子・衣装)、
やまさきな(衣装)、鈴木千穂(衣装)、
佐々木友輔(映像編集・技術)、小林旬(演出助手・舞台監督)
制作／静岡音楽館AOI
協力／桃花村(有)デックス(株)大直 創鉄工業



撮影：日置真光

AOIのオープン・デイ2019
モーツァルト 名曲の夕べ
(2019.8.3)



撮影：日置真光

静岡音楽館 AOI×SPAC- 静岡県舞台芸術センター共同事業 ふじのくにまぜかい演劇祭 2017 連携プログラム 1940-リヒャルト・シュトラウスの家-

2017年4月29日(土・祝) 13:30

宮城聡(演出)、野平一郎(音楽監督)、大岡淳(脚本)
佐々木典子(ソプラノ)、妻屋秀和(バス)、中川俊郎(ピアノ)、
花岡詠二(クラリネット)
劇団SPAC
若宮羊市(リヒャルト・シュトラウス)、木内琴子(アリーチェ・シュトラウス)、
春日井一平(矯正一)、小長谷勝彦(大島浩)、
奥野晃士(有田八郎、来栖三郎、父フランツ)、横山央(近衛秀麿、息子フランツ)
服部良一：蘇州夜曲
R.シュトラウス：オリンピック賛歌(録音・部分)
A.シェーンベルク：6つのピアノ小品 op.19
R.ヴァーグナー：星の歌(歌劇《タンホイザー》より)
G.ヴェルディ：さようなら、過ぎ去りし日々よ(歌劇《椿姫》より)
R.シュトラウス：皇紀2600年奉祝曲 op.84(録音・部分)
W.ドナルドソン：私の青空
R.シュトラウス：4つの最後の歌

第9回 アマチュア・アンサンブルの日♪ (2019.11.23)



撮影：日置真光

静岡音楽館AOIは開館25周年を迎えることとなりました。静岡の文化環境の育成と発展に、微力ながらその一端でも担うことができたと思えば、それは音楽館にとって、私にとって何ものにも代え難い大いなる喜びです。私が芸術監督に就任したのは2005年のことで、前監督の間宮芳生氏との交代を、2005年1月の「野平一郎ポートレート・コンサート」で行い、新旧の芸術監督の作品を私が演奏することによって音楽によるバトンの引継ぎを行ったことが、つい昨日のこのように思い出されます。それから数えてもすでに15年の歳月が経過しました。

この間に行った300近い主催公演の中で、特に強く印象に残る公演がありました。2006年3月に小林道夫氏に総指揮をお願いし、東京カンマーオーケストラと静岡児童合唱団、錚々たるソリスト陣によって演奏されたバッハの《マタイ受難曲》、2009年6月、間宮芳生氏のオペラ《ポボー》(倉橋由美子原作、田中泯演出)世界初演の刺激的な舞台、2007年と12年にフランスの世界的なサクソフォン奏者、クロード・ドラングルを招いて行われた2度の電子音響を含んだ"Quest"と"Next"では、ホールが巨大なライブ会場と化しました。また2017年4月に実現したSPAC(静岡県舞台芸術センター)と音楽館とのコラボレーション「1940 リヒャルト・シュトラウスの家」も静岡でなければ不可能だった忘れ難い公演でした。

確かにホールの形状や音響、舞台の表面積からいっても、静岡音楽館はクラシック音楽(西洋芸術音楽)の特にソロや室内楽、声楽のリートなどを中心に据えるべきホールですが、同時にワールドミュージックやジャズ、日本の伝統芸術を含んだ可能な限り多種多様な音楽文化を提供したいと思っています。またプロの旬な音楽家だけではなく、アマチュアからデビューしたての若者たちの活動を支援する催しにも力を入れてきました。「アマチュア・アンサンブルの日♪」はもう第10回を迎えようとしていますし、開館以来休みなく続いてきた「静岡の名手たち」オーディションは、すでに各分野から多くの合格者を出し、その演奏家たちによって「静岡の名手たち」アンサンブルが結成され、毎年夏の「AOIのオープン・デイ」で素晴らしい響きを聴かせてくれるようになりました。

芸術にマンネリ化は一番の敵。音楽好きの人たちには常に新鮮な興味を持っていただけるように、そして新しい人たちの音楽の魅力に引きずり込むような、そんな静岡音楽館がこれからも30年、50年と続いて、静岡の人々の憩いとなり、唯一無二の音楽体験が可能な「芸術の館」になることを願っております。



インタビュー

小菅優

7月4日(土)に「小菅優&石坂団十郎 デュオ・リサイタル〜ショパンの調べ〜」にご出演いただく小菅優さん。2010年以来、10年ぶりに登場する小菅さんにお話をうかがいました。

ピアニストにとってショパンは必ず取り組む作曲家だと思いますが、小菅さんにとってショパンはどんな作曲家でしょうか。

ショパンは大好きです。このところ、ベートーヴェンに取り組んでいてショパンからは離れていたんで、戻るという感じですね。センチメンタルだと思われがちですが、特に後期の作品はハーモニーの進行が斬新で、ポリフォニックだし、そういう面で革命的な作曲家だと思います。そして複雑な人間像で、いろいろな面があると思います。ポーランドで過ごし、10代で祖国を出た後は戻ることができず、ウィーンで話題になったり、パリで活躍するようになり……。多方向一バカント・オペラ、民俗的なリズムやメロディーからの影響や、彼がとても好きだったバッハの影響など、いろいろな要素が混ざっていると思います。初期の作品は彼がピアニストとして弾くための作品で、とはいってもピアノという楽器でオーケストラをあらわせるような作品です。それがだんだんと深くなっていった形式的な枠を超えたところに行きついています。感情の表現が幅広くって、爆発的なところと繊細なところの両方を持ち合わせていますよね。結核のために貧弱なイメージがついていますが、男性的だと思います。革命のエチュードやバラードもポエティック、ノスタルジックで、思いが強くあらわれています。そして後期の作品はあらゆるテーマがいっぺんに出てきて移り変わっていくので、それをどういう風に組み立てていくかが大きな課題ですね。そして晩年につれて、ハーモニーが定まらないところに惹かれます。ピアノが弾けるからこそいろいろ試しているというか、ハーモニーを冒険している気がします。また、ショパンのペダリングってとても適格だと思います。かいてあるとおりに踏むとクリアな響きになるんです。難しいですが。

初めてショパンを弾いたのは8歳のときです。(小犬のワルツ)とかエチュード(12の練習曲)op.25-2でした。エチュードは16歳のときにレコーディングしました。また、嬰ハ短調のポロネーズ(ポロネーズ第14番)を弾きましたが、とても好きです。そして、(幻想ポロネーズ)はすごい特別な曲だと思います。ほかには、ピアノ協奏曲は1番も2番も

弾いています。室内楽ヴァージョンもやったことがあります。1番も2番も比較的初期の作品ですが、ややオーケストラがかわいそうな感じが……。後期にもかいてくれたらよかったのと思います。特に抒情楽章がすてきです。バラード、即興曲は全曲やりましたが、スケルツォはまだです。最近弾いたのは《舟歌》で、曲のクライマックスのハーモニーの進行、何て素晴らしいでしょう。

実は今回、ピアノ・ソナタ第3番は初めて弾くんです。とても好きです。陰が常にあるところや、特に緩徐楽章の死が見えているような、神秘的な世界。ライフワークにしている『Four Elements』*1の今年のテーマ「大地」でも弾くつもりです。

ノクターンは《遺作》をよく弾いてました。今回の第17番は特にポリフォニックで、盛りだくさんな1曲だと思います。和声の動き、特に内声の動きがすごく面白い。ジョルジュ・サンドと別れたころでもあり、せつない感じもします。ちょうど私と同じくらいの年齢にかかれていて、それでいて晩年というのは……。あと30年くらい生きていたらどんな曲をかいていたかなと思います。作曲家としてもっと成長していたんじゃないでしょうか。ノクターンは今後全曲やっていきたいくらい好きです。

そして、チェロ・ソナタは演奏したことがあります。ショパンってチェロが好きだったようです。ソナタ以外にもすばらしい作品がいくつかあります。作曲家にとって優れた演奏家との出会いが大事で、それによって創作意欲を刺激されるところがありますよね。

共演する石坂さんは昨年、ベートーヴェンのチェロ・ソナタで一緒にしました。彼とは長年、新ダヴィッド同盟*2でともに活動しているので心が知れています。いろいろなキャラクターを出せる奏者ですから、この曲に最適だと思います。

ショパンの演奏についていえば、コルトー(1877-1962 仏のピアニスト)の弾くショパンが大好きです。彼はプレリュードを3回レコーディングしていますが、最初のがとても好き。マスタークラスで話していることもとても詩的で、フランスらしいフレーズで、それでいてバスラインがしっかりしていてオーケストラのように聴こえるんです。

小菅さんは幼いころにドイツに行かれ、ずっと研鑽を積まれていらっしゃいますね。

母が家で音楽を教えていたので、小さいころから音楽は身近にありました。家にLPがたくさんあって、それをいじるのが楽しかったです。で、9歳のとき、ドイツの交流コンサートでケルンに行き、同じ年齢くらいの子どもたちとハイドンのピアノ・トリオやモーツァルトのヴァイオリン・ソナタなどの室内楽をやったのですが、それがとても楽しかったんです。そのころ、ドイツのピアノの教授がぜひいらっしゃいと声をかけてくださり、「行きたい、行きたい」となって、ドイツで学ぶようになりました。もっともすぐというわけにはいきませんでしたけど。

コンサートによく出かけています。聴くのはブルクナーが大好きです。ブルクナーの作品って、オーストリアの風景そのものだと思います。ヤナーチェクも好きになりました。ミュンヘンにいますとき、バイエルン歌劇場によく通いました。大好きなキリル・ペトレニコの指揮でベルクの《ルル》やワーグナーの《神々の黄昏》など素晴らしいオペラをたくさん聴きましたが、今ベルリンに引っ越して、ベルリン・フィルの常任指揮者になった彼の指揮で今度はオーケストラ作品の数々も聴けるのは幸せです。常に深く知的で、バランス感覚が抜群で、それでいて自発的な解釈にはいつも感動させられます。

ピアニストとして着実に歩まれ、ドイツでの生活も長くなっていらっしゃるようですが、最近の小菅さんについて教えてください。

ソロも室内楽も演奏したい作品やプロジェクトがたくさんあります。弦楽器との共演、管楽器との共演でピアノの演奏のしかたが変わってくるのも面白いところです。同じ作品、例えばブラームスのクラリネット・ソナタはヴァイオリン・ソナタでもありますが、やってみるとクラリネットとヴァイオリンではフレーズ感が違うんです。でもとにかく学ぶことが多く、クラリネットの音の出方を習いました。

ピアノは音を出すことに苦労しないので、こんなに難しいんだと驚きました。弦楽器にも挑戦してみたいですが、各曲の勉強の他、新聞の連載、プログラムノートや歌曲の対訳などと自分に色々課題を増やしてしまっているので、時間が作れるか疑問です(笑)。モーツァルトなどの弾きふりも楽しいので、今後もっと増やしていく予定です。

それから、南アメリカに初めて行きました。文化圏が違うのでとても新鮮でした。ブエノスアイレスやブラジルのサンパウロ、リオデジャネイロなど。パラグアイでは地元の子どもたちとのワークショップをしました。タンゴを聴けたのも貴重な体験でした。

現代作品にも取り組んでいます。たとえば藤倉大さんの作品。藤倉さんには委嘱もしました。私のCDを聴いてくださっていて、そして趣味、具体的にいうと「ドラゴンクエスト」の話で盛り上がり、それが縁で。あと、2月にはイスラエルでシューマンとグリークのピアノ協奏曲を、指揮者なしでオーケストラではなく弦楽器9人のバージョンで演奏しました。

今後はロマン派、中でもブラームス、シューマンに取り組みたいですと思っています。

やはりドイツものをやっていきたい。今年はベートーヴェン生誕250年ですが、前から(何年でしたっけ?)ベートーヴェンのピアノ付作品すべての「ベートーヴェン詣」に取り組んでいます。バッハのインベンションとシンフォニア、バルティータも好きですが、バッハに対してはもう少し年を重ねてからゆっくりやっていきたいと考えています。

最後に、コンサートへいらっしゃるお客様にメッセージをお願いします。

AOIは以前にカルテット*3でうかがったことがあります、すばらしいホールですね。ピアノもとてもすばらしかった覚えがあります。今回また行けるので楽しみです。静岡市美術館でショパン展も開催されるということですが、私自身は昨年1月に初めてワルシャワに行きました。そのときショパン博物館へ行きました。初期の作品を座って聴けるようになっていたり、小さいころに描いた絵などを見ることができます。手帳や日記は字がとても繊細でした。彼の人生を辿っていけるようになっていてわかりやすかったです。プレイエルなどの楽器の展示もありました。せっかくなので時間があれば展覧会にも行ってみたいです。

聴き手： 関本淑乃 (静岡音楽館AOI 学芸員)

- *1 2017年秋から始動した、4つの元素「水・火・風・大地」をテーマにした新リサイタル・シリーズ
- *2 水戸芸術館の専属楽団。メンバーは庄司紗矢香、佐藤俊介(ヴァイオリン)、磯村和英(ヴィオラ)、石坂団十郎(チェロ)、小菅優(ピアノ)
- *3 コンサートシリーズ2010-11
小菅優(ピアノ)、榎本大進(ヴァイオリン)、川本嘉子(ヴィオラ)、趙静(チェロ)
2010年6月9日(水)
J.ブラームス:ピアノ四重奏曲第2番 イ長調 op.26
ピアノ四重奏曲第1番 ト短調 op.25

2020しずおか文化プロジェクト
(ピアノ) 静岡市文化振興財団

小菅優&石坂団十郎 デュオ・リサイタル

〜ショパンの調べ〜

7/4 土 22歳以下
¥1,000

15:00 開演 (14:30 開場)
全指定 ¥4,000 (静岡音楽館倶楽部会員 ¥3,600)

F.ショパン:
ノクターン第17番 ロ長調 op.62-1
チェロ・ソナタ ト短調 op.65
ピアノ・ソナタ第3番 ロ短調 op.58



フリデリク・ショパン
《フリデリク・ショパンの肖像》1847年
ドルトレヒト美術館 Dordrechts Museum



学芸員雑記 ショパンについて	
静岡音楽館AOI 学芸員 関本淑乃	
ピアノの詩人と呼ばれるショパン。彼が残した作品はほとんどがピアノ作品、あるいはピアノを伴う作品であり、交響曲やオペラは1作もかいていない稀有な作曲家である。その生涯はモーツァルト同様、大変短く、わずか39歳でこの世を去った。ドラクロワが描いた肖像画が残っているが、どことなくナイーヴな印象を受けるのではないだろうか。 ショパンについて考えるとき、祖国ポーランドと切り離すことはできない。彼は20歳で祖国を離れるのだが、それ以降、2度と足を踏み入れることはなかった。戻ろうにも戻れなかったのである。それはワルシャワ蜂起が起こったから。そしてその蜂起はロシア軍に制圧されたことにより失敗に終わる。《革命》(エチュード op.10-12)やエチュード op.25-12などはそれを受けてかかれた作品であり、その激しさからは祖国への想いがひしひしと伝わってくる。ショパンと言えば旋律の美しさ、優美さに目が行きがちだが、実は激しい一面も持ち合わせているのである。そして、マズルカ、ポロネーズと言った民俗的な作品を残していることからポーランドとのつながりがいかに強いかがわかるであろう。 さて、当館では7月にそんなショパンのコンサートを開催する。今回は特に後期の作品に的を絞ったプログラムで、そのひとつがピアノ・ソナタ第3番である。あの緊張感に満ちた出し(第1主題)とそれに続く優美な第2主題の対照性が聴く者を捉えて離さない第1楽章。言ってみれば陰と陽で、そのギャップはある意味、彼の人生そのものといえるかもしれない。それに続く、軽やかな第2楽章と甘く美しい第3楽章。そして徐々に切迫感が増していく終楽章。ショパンの優美さと激しさが同居している1曲だ。ほかにチェロ・ソナタとノクターン第17番を演奏する。 また、静岡市美術館ではショパン展が開催される。この展覧会は2019年が日本・ポーランド国交樹立100周年だったことにちなんでのものである。自筆譜などが展示されるので、コンサートとあわせてこちらもご覧いただくとショパンへの理解がより深まるであろう。ちなみに今年は5年に1度のショパン国際ピアノコンクールが開催される年。名だたるコンクールの中で課題曲がすべてショパンという、その名のとおり「ショパン」コンクールだ。ここから多くのピアニストが一気に世界へと飛躍している。もっとも、コンクールの入賞者はコンサートで専らショパンばかり求められ、自分のやりたいこととのジレンマに悩むという話もきくけれど。次の時代を担うピアニストは誰であろうか。 今年は生誕250年のベートーヴェン以外にショパンにも注目だ。	
静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業 静岡市美術館 2020しずおか文化プロジェクト 静岡市文化振興財団 「ショパン 200年の肖像」展 8月1日(土)～9月22日(火・祝) 開館時間 10:00～19:00(展示室入場は閉館30分前まで) 休館日 月曜日(祝日の場合は開館、翌平日休館) ※8月11日(火)は臨時開館 一般¥1,200(1,000)、大高生・70歳以上¥800(600)、 中学生以下無料*()内は前売および当日に限り20名以上の団体料金 【会場】 静岡市美術館 TEL.054-273-1515 フリデリク・ショパン《ポロネーズ》へ短調 作品71-3、自筆譜(贈呈用) 1836年 国立フリデリク・ショパン研究所附属 フリデリク・ショパン博物館 photo: The Fryderyk Chopin Institute	
講演会 作曲家入門 F.ショパン 5月30日(土)14:00～15:30 静岡市薬科生涯学習センター(TEL.054-278-4141) 6月19日(金)19:00～20:30 静岡音楽館AOI・講堂(TEL.054-251-2200) 無料(要申込) ※静岡市薬科生涯学習センターは5月9日(土)14:00より 定員 各20人(申込順) 静岡科学館 ぐ・る イベントホール(9階) 無料(要申込、要入館料) ※7月18日(土)9:30より 対象 小学生以上(未就学児入場不可)60人(申込順) 【主催】 静岡市科学館 ぐ・る TEL.054-284-6960	



メッセージ

工藤重典

工藤重典(フルート)

© 土居政則

6月11日(木)におこなわれるランチタイム・コンサート 工藤重典 & 福田進一 フルートとギターの饗宴。AOIではお馴染みの福田さんがバりに留学していた時からの盟友、工藤重典さんと共演します。工藤さんはこれまで何度かご出演いただいており、福田さんとお2人での出演もありますが、久しぶりの登場です。そんな工藤重典さんからメッセージが届きました。

久しぶりに福田進一さんと演奏できるのは、心踊ります。彼とは幼なじみみたいなもので、どれだけ多くのコンサートをやってきたことか……。CDも5枚も録音し、フルートとギターのレパートリーはほぼ網羅しました。フルートとギターというのは、実はそれほどレパートリーが多くはありません。しかし、彼は何でもあつという間に編曲をして、重要なレパートリーにするのです。時には、まだ誰も知らない作品に日の目を見させることも。今回演奏するシューベルトの《アルペジオーネ・ソナタ》も、僕達のパリ時代に、彼がギターとフルート用に編曲しました。

今や福田さんは日本中、いや世界中で彼のファンを増やし続けている稀有な音楽家なのです！更に、我々2人の旧知の仲である野平一郎さんと彼の妻、多美さんが編曲した日本の曲も取り入れ、楽しいプログラムを考えました。是非皆さん、忙しい日常から離れ、心をリフレッシュしに来ませんか？

工藤重典(フルート)

ランチタイム・コンサート 工藤重典 & 福田進一 フルートと ギターの饗宴

6/11 木

22歳以下
¥1,000

11:30 開演(11:00 開場) ※12:30終演予定
全指定 ¥1,800(静岡音楽館倶楽部会員¥1,620)

※このコンサートは休憩がありません。
※未就学児はご入場いただけません。

曲目

F.シューベルト：アルペジオーネ・ソナタ D.821 (福田進一 編)
M.ラヴェル：ハバネラ形式の小品
J.イベール：間奏曲
野平一郎 & 野平多美 編：日本の歌 (城ヶ島の雨、ふるさと、荒城の月) ほか

出演

工藤重典(フルート)、福田進一(ギター)



福田進一(ギター)
© Takanori Ishii



ランチタイム・コンサート
工藤重典(フルート) & 福田進一(ギター)
GOLDEN DUO (2010.5.7)

撮影：日置真光

速報 AOIのオープン・デイ2020

7/18(土)10:00~20:00
会場：静岡音楽館AOIホール・講堂 ほか

無 料

今年も「AOIのオープン・デイ」を開催いたします。さまざまな催しをご用意してみなさまのお越しをお待ちしています。ぜひAOIへ足をお運びください。なお、お申し込み方法等詳細はチラシ、ホームページ等でご案内いたします。

2020しずおか文化プロジェクト
静岡市文化振興財団

モーツァルト 名曲のタベ 「静岡の名手たち」アンサンブル 要申込

18:00 開演(17:30 開場) ※20:00 終演予定 ホール(8階)

出演

野平一郎(指揮)、岡田沙也佳(ピアノ)

「静岡の名手たち」アンサンブル

[嶋田慶子、小川亜希子、京極朔子、小杉結、沼野朱音、萩原嘉乃、
増田訓子(ヴァイオリン)、生駒宗煌、鈴木穂波(チェロ)、
山西貴久(コントラバス)、縄巻花笛、諸田大輔(フルート)、
塚本陽子(クラリネット)、入川奨(打楽器)]

荒井友美、河西絢子、加藤えりな、谷口亜美、対馬裕美、外園萌香
山村妙子、吉原葉子(ヴァイオリン)、岡さおり、小室明佳里、坂口弦太郎、
阪本奈津子、鈴木香奈江、古屋聡見(ヴィオラ)、河野文昭、佐古健一(チェロ)、
西山真二、松井理史(コントラバス)、安里昌悟、荒絵理子(オーボエ)、
濱崎由紀(クラリネット)、田吉佑久子、向後崇雄(ファゴット)、石山直城、
竹村淳司(ホルン)、栃本浩規、星野朱音(トランペット)

曲目

W.A.モーツァルト：歌劇《フィガロの結婚》K.492 序曲
ピアノ協奏曲第21番 ハ長調 K.467
交響曲第39番 変ホ長調 K.543

定員 600人(全自由・要申込・多数抽選) ※未就学児はご入場いただけません。託児サービスはありません。演奏中の出入はご遠慮ください。



撮影：相田憲克



撮影：日置真光

入場無料・出入自由！

演奏中の出入はご遠慮ください

パイプオルガン、やってるよ♪

申込不要

10:30 開演(10:00 開場) ※12:25 終演予定 ホール(8階)

出演・曲目

10:30 ~ 10:55、11:30 ~ 11:55



本田ひまわり(オルガン)

J.S.バッハ：オルガン協奏曲 ト長調 BWV 592 より 第1楽章
J.C.ケルル：カッコウによるカブリッチョ
黒須克彦：夢をかなえてドラえもん
J.S.バッハ：G線上のアリア (BWV1068)
米津玄師：パブリカ
Ch.M.ヴィドール：オルガン交響曲第5番 op.42-1 よりトッカータ

11:00 ~ 11:25、12:00 ~ 12:25



永瀬真紀(オルガン)

V.A.ペトラリー：《グローリア唱句》よりアレグロ・ブリランテ
J.S.バッハ/C.グノー：アヴェ・マリア (BWV846)
J.S.バッハ：フーガ ト短調 BWV578
F.チャーチル：映画「白雪姫」より〈ハイ・ホー〉
シャーマン兄弟：映画「メリー・ポピンズ」より〈チム・チム・チェリー〉
R.ロジャース：ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」より
〈エーデルワイス〉
L.J.A.ルフェビュール＝ヴェリー：退堂曲 変ホ長調

定員 600人(全自由・申込不要・当日先着順)



そのほか、

- ・ロビーコンサート
 - ・ワクワク！いろんな楽器にふれてみよう！
 - ・音と音楽のミニ・サイエンスショー
 - ・リハーサルをのぞいちゃお
 - ・あなたの楽器の無料診察室
 - ・ショップ・コーナー
- などを予定しています。